研究計画

研究主題　「知識・技能を活用して主体的に考えさせる授業の研究」

～資質・能力を引き出す授業づくり～

1　研究主題にかかる基本的な考え方

（1）目指す生徒像

本校の学校教育目標は「仲間と共に学び、自ら考え行動する生徒の育成」である。学校は集団で学ぶ場である。仲間と共にかかわり合いながら学ぶことを重視したい。また、学習を通して、「考える力」を育てることが重要であると考える。生徒が将来社会に出て、人の役に立ったり、社会の中で自己実現を図っていけるように、様々な課題に対して柔軟かつたくましく対応し、社会人、職業人として自立できる人間になってほしい。そのためには、考える力やそれを表現する力、行動する力が重要である。生徒の将来を見据え、「自ら考え行動できる生徒」を私たちは育てていきたいと思っている。

本校の生徒は、素直で優しい面を持っている。しかし、積極的に自分の考えを述べたり主体的に行動したりすることはあまり得意ではない。思考力と共に言葉の力をつけ、主体性をつけることが課題である。

中学生のこの時期特有の状況でもあるかもしれないが、学校教育活動の充実、手立てによって向上するものと思われる。自分で考え、考えたことをしっかり話せる、書ける、主体的に行動できる生徒を目指している。このためには、図書館教育や生徒会活動、学級づくり等に取り組むと共に、特に授業を中心に育成していくことが大切であると考える。

（2）教育課程の目的･ねらい

教育課程の目的･ねらいは、**〈学力の3要素〉**を育むことである。日々の授業のなかで、これらの学力を生徒に身に付けさせることを目指していかなければならない。「教師の指示で学習内容が進む授業」と「生徒が見通しをもって学習を進める授業」との両者をバランス良く位置付けることが大切である。

〈学力の3要素〉とは、

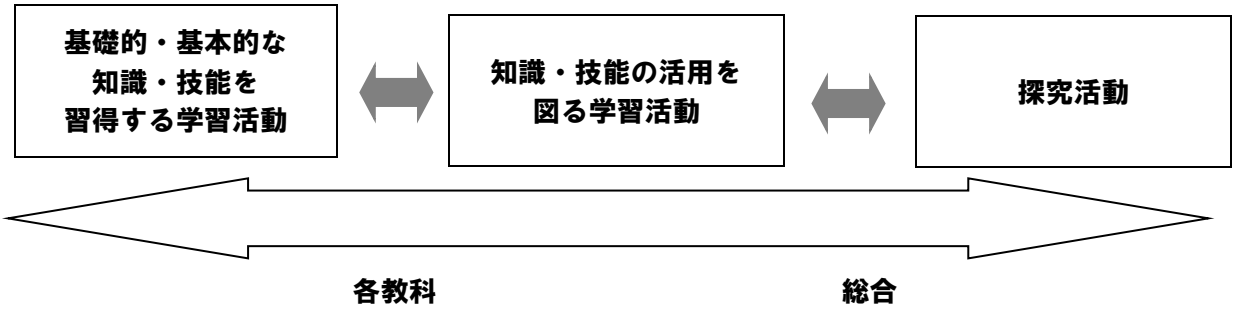
・基礎的な知識・技能
・思考力・判断力・表現力
・主体的に学習に取り組む態度（学習意欲）である。

〈学力の3要素〉を育む手立てとして、次の３つがある。これらの手立てを重視して、生徒の実態、学校の特色を生かしながら、特色ある教育課程を編成していく必要がある。

①習得・活用・探究

習得・活用・探究の３つの活動はステップではなく、それぞれが大切である。

習得したことは、使っていくこと（活用）によって、定着・向上する。知識・技能の活用を図る学習活動では、とくに言語活動が重要である。



②言語活動の充実

各教科で、その教科の言語活動とは何なのかを考え、言葉の力を育てていく。

〇言語活動は、すべての学習の基盤である。すべての教科等で、言葉の力を育てることを一層重視することが大切である。

〇各教科等の目標を実現するためには、言語活動を適切に取り入れることが不可欠である。特に、思考力・判断力・表現力を育てるうえで重要である。

③目標に準拠した評価

評価することが目標ではない。学力の３要素をはぐくむために、C 評価の子どもを少なくしていくことが目標である。各教科のねらいにふさわしい評価規準を考えるとともに、C評価の子どもに対する手立てを考えていかなければならない。

（3）研究主題について

上記（1）（2）をもとに、これまでの研究成果と新学習指導要領移行期間に入ることを踏まえ本校の研究主題を「知識・技能を活用して主体的に考えさせる授業の研究」～資質・能力を引き出す授業づくり～と変更した。まず、本校の目指す生徒像である「自ら考え行動する生徒」を育てていくには、教育課程のねらいである学力の３要素、またそれを育む手立てとしてあげられる「知識・技能の活用」「思考力の向上」が重要であると考える。さらに新学習指導要領が目指す「資質・能力の育成」の理念に則った「愛宕の生徒にみにつけさせたい力」を具体的に教育活動に落とし込みたいという狙いがある。資質・能力は本来生徒一人ひとりの内に秘めているものであり、教育活動により、それらを表に出すものと考え、資質・能力を引き出す授業づくりというサブタイトルを新たに設けた。日々の授業で獲得してきた基礎的な知識・技能を使い、学習課題について主体的に考え、対話的な学習等を通して、さらに自分の考えを深めることができ、何をすることができるようになったかがわかるような授業づくりを目指したい。このような授業づくりに当たっては、モデルとなる授業の研究や学習課題の設定や言語活動の充実そして振り返りが大切である。

本年度は、各教科、道徳、特別活動（学級活動）、総合的な学習について研究する。なお「タテ持ち」方式による実践研究は数学と英語において研究する。

それぞれの教科・領域の特性に鑑み、これまでの研究をもとに、研究主題に迫りたい。

① 質の高い授業

〇生徒にわかる授業

〇質の高い授業を目指す８つのポイントに基づく授業

〇知識・技能を活用して考えさせる授業

授業研究では次のことを重視して、思考型授業を研究することを確認しあった。

－思考型授業の取り組みの共通理解－

◆ 思考対象の明確化（学習課題等）
その時間に何をやるか、何を考えるか、授業の目標、見通し等を明確にする。

◆ 思考過程の共有（言語活動、板書の工夫、思考ツールの工夫）
知識・技能の活用への手立て
考えの説明、発表、討論、ペア、グループでの意見交換等、かかわり合いによる思考のプロセスを板書で効果的に可視化する。

◆ 思考結果を表現（まとめ）
その時間のまとめを生徒自身のことばで記述する。また、板書でも掲示する。

＊ 授業について肯定的評価を行う。

・これまで学んだ知識・技能を生徒自らがストックし、活用できるようにする。

・生徒が考えたくなる、語りたくなるような教材や発問の工夫

・学習課題と思考過程、まとめの明確化

・具体物の提示
・形成的評価の重視（授業の最後に小テスト等で確認をする。）
・何を学んだかが生徒自身にわかる。
・生徒自身が今どういう状態であるのか、どうしていけばいいのかわかる。（メタ認知）
・教師が一方的に説明をする授業から生徒が見通しをもって進める授業へ

〇授業は積極的な生徒指導
・生徒への評価言、声がけ、机間指導、ＫＲ（応答）
・個々の学習状況の把握とつまずきの早期発見
・教師が何よりもその授業（教科）が好きである、常に自分の授業を振り返り研究する。
・オープンエンドな終わり方
　生徒が次の授業が楽しみになるような終わり方をする。

②　生徒同士がかかわり合う授業
・さりげない優しさで結ばれたかかわり
・わからないことを尋ねることができる関係
・尋ねられたとき、誠意を持って答えてあげられる関係
・個→グループ→全体→個
・個々の生徒の理解や思考を深めるために、学力定着のために、かかわり合いがある。

＊３～４人の小グループでかかわり合う。学習集団を固定化せず全員が話すこと。
・日常の生活でのかかわりを大切にし、授業に生かす。
・生徒同士のかかわりは、教師がつくるものである。教師との信頼関係が大事である。
・かかわり合いの中での生徒間の話を教師がよく聴く、つなげる。（教材と、他の生徒と）
＊生徒が受け止めてもらったと感じると意欲が高まることに留意する。

生徒同士がかかわりあって学ぶ
＜教師の役割＞
「つなぐ」＝仕掛け
1　考えと考えをつなぐ
2　生徒と教材をつなぐ
3　生徒と生徒をつなぐ

研修を進めるに当たっては、全教員が授業について協議することを通して、これまで次のような共通理解を図ってきた。

授業とは、「教科力」「全教科共通の指導方法の工夫、ペアや小グループによるかかわり合い」「人間関係」の３つによって成立し、より良いものとなる。

１つ目の教科力については、より良い授業を行うにあたって、なくてはならない教師の専門性である。これが各教科のねらいを達成するうえで、最も重要であると考えている。互いに切磋琢磨しながら専門性を高めていこうと確認し合った。

２つ目の全教科共通の授業づくり、かかわり合いや指導方法の工夫については、毎日の授業や校内研修で培うものである。本校では、「質の高い授業８ポイント」を共通項目として授業づくりを進めてきた。この内容は、①チャイムで始める・終わる②何を学習するかを明確にする③教師の発問・説明・指示は短くわかり易く④生徒に意欲をもたせる仕掛け⑤生徒同士がかかわる仕掛け⑥何を学習したかわかる板書⑦分かったこと・良かったこと・定着度を振り返る⑧肯定的評価を入れるという８ポイントである。これらは、当たり前と思いながらも実際のところチェックしてみるとなかなか難しいものだと思われる。授業者は日頃から常にこの８ポイントをチェックする。校内研修では、見る側もこれを意識しながら見て、更にこのような８ポイントのチェック表が入った授業改善シートと指導案と座席表の３セットをもって参観し、記入していく。事後研はこれをもとに授業後の話し合いがなされ、授業者はその後、参観者からこのシートをもらって、個人の反省と照らし合わせながらまとめ、次時の授業に臨むという研究体制をとっていく。

３つ目に、人間関係づくりについては、教師と生徒、生徒と生徒同士の関係が信頼し合えるものであることが大切である。この関係づくりを授業でつくることが重要である。また、学校全体での道徳教育の取り組みが大事である。日常生活での会話・教育相談やエンカウンターを全校的に取り入れて、よりよい授業の土台となる学級づくりをしていく。

分からないことをきちんと言えたり、あぁなるほど等、共感しあえるような人間関係づくりと全教科共通の指導方法やかかわり合い、肯定的評価を効果的に入れて教材に引き込ませたり、生徒が学びたくなるような教材への出会いを提供するなどの授業づくりを大切にしたいと思っている。

２　研究組織

（１）　授業づくり　研究推進委員会と教科主任会は隔週で週１回開く。

①　研究推進委員会は３部会の部長と管理職、研究主任、教務主任、主幹教諭で構成する。
研究の方向性を確認、授業づくり（探究的な学習）の研究、ICT を活用した授業づくり、学習課題設定の工夫、関わり合い、言語活動の充実のため、考える力を育てる教科指導の工夫（思考ツールの活用など)、振り返りの充実、３部会からの報告、小中連携の推進など

②　教科主任会は５教科の教科主任で構成する。
各教科の取り組みや状況の共有、生徒指導上の共有、授業評価等の共有や項目等について検討や交流など

③　教科部会（数英）
教科の進捗状況の確認、指導内容や方法の共有、教具や副教材（自主プリント）等の共有
授業評価等の実施や分析・改善について、定期テストの作成、単元ごとに「身につけたい力」やその取り組み方について確認、授業改善プランの計画・進捗状況の確認・検証、授業研に向けた指導案の検討、ルーブリック評価について検討、生徒の実態把握、各調査の分析、入試対策、研修報告など

（２）　３部会…全員の教職員が３部に分かれて参加する。

（平成 30 年度重点研究）

道徳部会	…	道徳教科化、各教科につながる探究的な授業づくり、図書館教育の研究
特別活動部会	…	学級経営（不登校予防)、エンカウンター、Q‐U、学級活動の研究
総合部会	…	防災学習、キャリア学習において探究的活動のある学習の研究

（３）　授業研究　１人年間１～２回の授業研究を行い、事前・事後を通して研究を深める。

（４）　定期的に金曜日の１６時を３部会の日。水曜日の１５時を授業研究の日として設定する。「授業研究計画」は、別に記載。

（５）　平成 30 年度中学校組織力向上のための実践研究授業
　　教科の「タテ持ち」方式による実践研究

３ 研究内容

（１）　授業研究（探究的な授業づくりの継続・タテ持ち方式）【研究推進委員会・教科主任会】
（２）　道徳の授業研究【道徳部会】
（３）　学級活動の研究・教育相談・不登校予防【特活部会】
（４）　総合的な学習の時間、コミュニティ・スクール、地域ぐるみ教育の充実【総合部会】
（５）　家庭学習の定着
（６）　終学活の活性化
（７）　読書活動の推進
（８）　小中連携の取り組み
（９）　５Ｗ１Ｈの徹底（授業・生徒集会等）

４ 具体的な取り組み

研究主題に基づいて、既習事項である基礎的な知識・技能を活用して、学習課題について考えさせる魅力ある授業づくりを研究していかなければならない。

（１）「生徒に身につけさせたい力」（表１）

①　設定理由

新学習指導要領では、「子どもたちが未来社会を切り拓くための『資質・能力を一層確実に育成』する。その際、子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する『社会に開かれた教育課程』を重視する」とある。さらに、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を通して「何ができるようになるか」を明確化することが挙げられている。

本校では探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業を平成 28 年度から受け、研究を推進する中で、本校の生徒の実態を洗い出し、本校の生徒が社会に出て自分の人生を切り拓いていけるために必要な具体的な資質・能力を文言化した。具体的に文言化することで、教員同士が同じ目標に向かい、各教科・領域の関連性を意識した教育活動が出来ると考える。また生徒と共有することで、生徒も自分の成長を客観的に視る視点をもち、メタ認知能力が育成できると考える。

②　具体的な取り組み

ア　「生徒に身につけさせたい力」を意識化する。
　・掲示物として各教室・特別教室・校舎内の掲示板に掲示する。（図１）
　・年度当初の学級開き・授業開き・総合的な学習の時間のオリエンテーション等で生徒に説明する。

イ　「生徒に身につけさせたい力」を意識した授業づくりを進めていく。
　・各教科・領域の教育計画の教科目標に、より明確に関連する項目を記載する。

例）英語

○英語を読んだり書いたりする時に、既習事項や辞書を適切に使うことができる。（情報活用力）

○初歩的な英語を使って、ペア、小グループ、学級で気持ちよくコミュニケーション活動ができる。（協働力・人間力）

・各教科・領域の各単元において、どのような力が関係するのかを、３部会・教科部会で確認をして年間計画を作成していく。実践する中で、年度途中で修正をかけていく。

・研究授業の指導案に、関連する力を明記する。

ウ　「生徒に身につけさせたい力」を使って振り返りを行い、次の目標を持たせる。

・各教科、総合的な学習の時間の単元の終わりと、学校行事終了後の反省の時に、この力について振り返りを行う。（図１）その際に、生徒になぜその力がついたのか理由を書かせ、さらに学級で発表をさせて、自己評価及び他者評価も入れて、自己理解を深めさせ、自己肯定感を高めさせる。

・振り返りの結果から、生徒は学校生活における次の目標をもち、指導者は次の指導に生かしていく。

エ　振り返りワークシートの使い方

総合的な学習の時間のファイルに保管する。総合的な学習の時間においては、単元ごとに振り返りを行う。体育祭と文化祭後の振り返りにおいては、委員会の取り組みの反省を行った後に、続けてこのシートを使って振り返りを行う。その後の学校生活に生かすことができるよう目標を持たせたり個人の課題を意識させたりする。教科においては、計画した単元終了後にこのシートを使って振り返りをさせる。

図１振り返りシート例

月日	学習内容	課題発見力	思考力	判断力	表現力	情報活用力	継続力	行動力	自律力	協働力	人間力	使った知識・技能
6月14日	社会 第二次大戦と日本の敗戦					戦争の時の人々の状況について本・新聞・インターネットを使って調べ、表にまとめることが前よりうまくできた。					命の大切さについて改めて考え、敗戦から復興してきた人々のたくましさが理解できた。	表の作り方
7月11日 ～13日	総合 職場体験							困っているお客さんに気がつきすぐ対応をすることができた。		職場の人と協力して販売をすることができた。		相手の立場になって考える。
9月15日	体育祭	どうやれば、種目が速く正確にできるかを見つけることができた。					学年種目の競技の練習を諦めずに最後までやったので継続力がついたと思う。			応援練習ではリーダーの指示をよく聞いて最上級生として下級生にも声かけができ		体育で鍛えた瞬発力を使った。
10月7日	文化祭				歌のメッセージをよく考えて、気持ちが伝わるように歌うことができた。							国語で学習した歌詞の内容を理解する力を使って表現した。

表１　愛宕の生徒に身につけさせたい力

<table>
<tr><th colspan="2">観点</th><th>生徒に身につけさせたい力（育成すべき資質･能力）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」</td><td>学習方法</td><td>１　課題発見力
・与えられた学習課題をこなすだけでなく、次はどうなるのか興味関心あるいは疑問をもって新たな課題を見つけることが出来る。
・他とちがう視点で課題を発見することができる。
２　思考力
・いろいろな角度から物事を考えることができる。知識・技能を用いて、より深く考えることができる。
・自由な発想で考え、新たなものを生み出すことができる。
３　判断力
・自分で根拠をもって判断することができる。自分で物事を決めることができる。
４　表現力
・自分の言葉で、相手に内容がきちんと伝わるように話すことができる。
・相手が伝えていることを正確に聞くことができる。
５　情報活用力
・自分で資料や情報を用いて目的にあったまとめをすることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">「学びに向かう力」</td><td>自分自身</td><td>６　継続力
・ものごとをすぐに諦めず最後まで粘り強くやり抜こうとする。
・向上心をもって自分を高めるために努力することができる。
７　行動力
・考えたこと・学習したことを実行にうつすことができる。
・実行しようとしている。
８　自律力
・先を見通して、計画的にものごとを進めることができる。
・予想して自ら行動できる。</td></tr>
<tr><td>他者や社会とのかかわり</td><td>９　協働力
・人と協力してものごとを行う。
・気持ちよくコミュニケーションをとることができる。
１０　人間力
・相手の立場に立って考えることができる。
・人とコミュニケーションをとることができる。
・社会の一員として適切な行動をとることができる。
・社会の一員として、自分のことだけでなく、地域・社会のことに目を向けることができる。</td></tr>
</table>

（２）授業研究【研究推進委員会、教科主任会、道徳部会】

①生徒が、確かな思考を深めるような学習課題の設定の研究をする。

（この課題で、生徒に思考させることができたかを考えていく。）

②班活動等、生徒同士のかかわり合いを重視した授業づくり

③一単位時間、あるいは一単元の授業モデルを設定し、授業実践を通して研究をすすめる。

④道徳の授業づくり、総合的な学習、エンカウンターなどを取り入れた学級活動の研究

⑤図書館や新聞を活用した教科等の学習の充実

⑥各教科・領域の全体計画、年間指導計画、単元計画を実践に基づいた確かなものとする。

⑦言語活動を重視した授業づくりを研究する。

・生徒同士のかかわりが見える授業をつくる。（思考ツールの活用）
　（３～４人の小グループでのかかわり合い）
・授業研究では授業改善シートを活用する。
・基礎学力の定着、向上（学力・学習状況調査等の分析、加力学習の効果的な実施）
・個々の生徒の名前を挙げて、生徒理解の視点からも授業研究を行う。
・すべての先生の授業を講師の先生に見てもらう。（県外講師、教育研究所、教育委員会等）
・教科部会でも研究テーマに沿った取り組みを一層協議する。
・小中学校で連携して学習規律の定着、言語活動の充実に取り組む。…「三ッ星トーク」の実践
・言語力を高めるため、生徒集会（１分間スピーチ）、読書活動に取り組む。

（３）学級の人間関係づくり【特活部会】

・温かく規律ある学級づくり（担任と生徒、生徒と生徒）により不登校を予防する。
・年間８回程度、全校でエンカウンターを実施する。
・Ｑ－Ｕの調査・分析により、学級づくりを充実する。
・ＳＣ、ＳＳＷと連携し、生徒の心に寄り添う教育相談活動を行う。

（４）探究的な活動・地域連携の充実【総合部会】

・系統的な防災学習への取り組み。
・キャリア教育（わくわくＷＯＲＫ）の実施・充実。
・地域連携によるボランティア活動の取り組み。

・地域ぐるみの生徒会活動
・あいさつ運動
・清掃活動　・商店街の活性化
・勤労体験
・防災学習　等

愛宕応援団によるあいさつ運動

（５）家庭学習の定着

・本校の「ＡＴＡＧＯタイム」（全校配布の手引書）に沿って実施
　一日６０分以上の家庭学習を目指す

ATAGO タイム

（１年…７０分、２年…８０分、３年…９０分がめやす）
・学習習慣確立プログラムの実施
・ダイアリー（教科書の写文、自主学習、短作文）の実施
・ダイアリーコンクール（生徒会活動）の実施
・自主学習ノートの推進
・ドリル学習（パワーアップシートの直し、ダイアリーの徹底）
・保護者への啓発（説明会、講演会）

生徒会主催
のダイアリー
コンクール

（６）終学活の活性化
・瞑想をする。
・「今日、よかったところ」を出し合う。

（７）読書活動の推進…ＡＴＡＧＯタイムに掲載

（８）小中連携の取り組み
・校区の小学校参観授業、校内研修参加
・スポーツ、合唱などの児童、生徒交流
・小中合同研修会（８月）（１０月）
・小中９年間の愛宕校区言語活動の充実
※三ツ星トークの取り組み

三ツ星トーク　ポスター

小中合同研修会

８月に、小中合同で、「児童生徒理解」というテーマで講話と演習を行いました。

１０月に、小中合同で、授業参観後「関わることで育む力」というテーマで講話を行いました。

（９）５Ｗ１Ｈの徹底
・教室の前に掲示をし、意識化を図る。
・授業・終学活等で意識を高める。
・「５Ｗ１Ｈ活用ワークシート集」を活用する。

＜授業観察のあり方＞

〇授業者　指導案・教材・授業改善シート・座席表・授業力チェックシート

〇参観者　生徒、教師の発言、動きなどの記録をとる。（記憶より記録が大事。）

〇できるだけサイドや前方から授業（生徒の顔、表情）を見る。

〇班を分担して観察する、事実を重視する。

授業研究

〇参観者が授業を見る視点

かかわり合う場を中心に見る。

８つのポイントを意識して見る。

生徒のつぶやき、とまどい、反応なども見ていく。

主体的・対話的・深い学びができているかを見る。

授業改善シートと授業力チェックシートに記入し、研究協議後授業者に渡す。

授業研究

＜授業後の討議～研究主題に基づいて～＞

１　授業者が提案した教科等の目標（ねらい）の達成、主体的・対話的・深い学びについて協議

- 授業改善シートと討議の柱（主体的・対話的・深い学び等）に沿って討議する。
- 生徒同士のかかわり（グループ活動など）
- 教師の生徒へのかかわり
  （課題設定、生徒の話を聴く、生徒間をつなぐ、教材に戻す）
- 個々の生徒についての理解
- 学習課題に対しての振り返り→次の課題設定

２　事後研をおこなうにあたって⇒厳しい仲良し

- 同教科は学年を超えて参加する。
- 批判、評論はしない。
  自分の授業、クラスの中で悩んでいることを出し、ともに明日につながるような話をしていく。
- 学年を超えて生徒理解を深める。
- 授業者が授業をしてよかったと感じる、次の授業への意欲がもてるような協議

事後研究